

科目名	音楽理論Ⅰ			担当教員	長川 慶、長川 慶	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED1MTC101
期待される学修成果	基礎教養 教科教育					
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	基礎的な音楽理論を理解し、必要な知識を身に付ける。 学習した音楽理論の知識を演奏などに応用できる。 和声学をはじめとした専門性の高い授業へ向け、土台となる知識を身に付ける。					
授業の概要	音楽の基礎理論は、音楽における言わば共通言語であり、専門的な学びに必要な不可欠なものである。 本講義では、音楽の基礎的な理論（楽典）を中心に学習する。実際の楽譜や演奏を通じて考えることで、理論だけでなく実践的な力を養うことを目標とする。 デジタル技術利用：該当なし					

授業計画	
第1回	授業オリエンテーション 記譜法１：リズムと拍①（拍子記号と音価）
第2回	記譜法２：リズムと拍②（単純拍子と複合拍子、連符）
第3回	記譜法３：音名と音高（音名、音部記号と五線、調号と変化記号）
第4回	記譜法４：その他細則（略記法）
第5回	音程１：音程の表し方
第6回	音程２：複合音程と転回音程
第7回	前半の総復習
第8回	音階と調性１：音階の役割と規則、長音階と短音階
第9回	音階と調性２：調性のしくみと相互関係
第10回	音階と調性３：移調のしくみと移調譜の作成
第11回	和音１：三和音
第12回	和音２：七の和音
第13回	和音３：基本形と転回形
第14回	定期試験模試
第15回	定期試験模試の解説

事前学修	2時間	授業内で次回の内容を提示するので、学習予定の単元に目を通しておくこと。
事後学修	2時間	学習した単元について復習し、知識の定着を図ること。特に規則や用語については暗記するように努めること。 不明な点などがある場合は、教員に質問する、教科書を再読するなど、疑問を残さないようにすること。
フィードバックの方法	各単元で練習問題を行い、進捗状況を確認する 模擬試験を実施し、模範解答を用いて解説する	

成績評価方法		割合（％）	評価基準等
定期試験		100%	各項目の理解度を問う筆記試験
補足事項	授業の進行などにより、シラパスが入れ替わる場合がある		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
明解楽典	近藤圭ほか	音楽之友社	4-276-10010-0	なし
参考資料	なし			

科目名	音楽理論Ⅱ			担当教員	長川 慶、長川 慶	
単位	2単位	講義区分	講義		ナンバリング	ED1MTC402
期待される学修成果	教科教育 自己形成					
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク					
実務経験						
実務経験を生かした授業内容						
到達目標及びテーマ	基礎的な音楽理論を理解し、必要な知識を身に付ける。 学習した音楽理論の知識を演奏などに応用できる。 和声学をはじめとした専門性の高い授業へ向け、土台となる知識を身に付ける。					
授業の概要	音楽理論Ⅰで学習した内容を基本とし、内容を発展させ専門的授業に対応できる知識の定着を図る。 デジタル技術利用：該当なし					

授業計画	
第1回	音楽理論Ⅰの復習１：小テスト
第2回	音楽理論Ⅰの復習２：小テストの解説と音楽理論Ⅰの内容整理
第3回	記譜法と音階
第4回	教会旋法と長音階・短音階以外の音階
第5回	転調の役割と実際：近親調への転調と遠隔転調の転調
第6回	移旋
第7回	移調楽器のしくみと楽譜の制作
第8回	調性の判定１：調整判定の方法
第9回	調性の判定２：調整判定の実際
第10回	和声の機能：トニック、ドミナント、サブドミナント
第11回	和声の進行：四声体と終止形
第12回	楽語
第13回	楽曲分析
第14回	定期試験模試
第15回	定期試験模試の解説

事前学修	2時間	授業内で次回の内容を提示するので、学習予定の単元に目を通しておくこと。
事後学修	2時間	学習した単元について復習し、知識の定着を図ること。特に規則や用語については暗記するように努めること。不明な点などがある場合は、教員に質問する、教科書を再読するなど、疑問を残さないようにすること。
フィードバックの方法	模擬試験を実施し、模範解答を用いて解説する。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	100%	各項目の理解度を問う筆記試験
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考

明解楽典	近藤圭ほか	音楽之友社	4-276-10010-0	なし
参考資料	なし			